

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	都市建設部		
	課名	水道課		
	係名	業務係		
	記入者		電話(内線)	652

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	<b>継続</b>	(2) 事務事業 の名称	配水管更新事業	(3) 事業の 優先度	<b>A</b>
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	<b>主要事業</b>	(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質 普通建設事業費(ハード事業)	
② 施策コード	25102 (総合計画掲載 <sup>ハ</sup> - <sup>ジ</sup> 87 <sup>ハ</sup> - <sup>ジ</sup> )	会計区分		企業会計	
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)	財源区分		国庫補助	
基本施策	2-5安全な水を安定供給できるまちづくり(上水道)	予算科目		款 1 項 1 目 4	
施策	①安全で安定した水の供給	予算書上の 事業名称		配水管更新事業費 (予算書 433 <sup>ハ</sup> - <sup>ジ</sup> に掲載)	
施策内容	2石綿セメント管更新による漏水及びにごり対策	(8) 事務分類		自治事務	
(5) 事業期間	開始 平成 9 年 4 月から 終了 年 月まで ( 力年)	根拠法令		水道法	

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
石綿セメント管 鋼管・鋳鉄管・ダクタイル鋳鉄管 水道用硬質塩化ビニル管	管路の耐震性の向上を図るとともに赤水及び漏水の解消を図る。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
石綿セメント管やその他老朽管を耐震性のある配水ポリエチレン管やダクタイル鋳鉄管(GX・NS)等に更新する。	赤水の苦情が市民から恒常的にあり、赤水発生の原因の一つである老朽化した石綿セメント管やその他老朽管を計画的に更新していく必要があるため。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
赤水対策も要因の一つであるが, 東日本大震災以降, 耐震化をいち早く進める必要がある。	

3. 事業コスト

行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映	
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)	
事業内容	27 年度	28 年度	29 年度    30 年度    31 年度	
(1) 事務事業費	委託料	11,512	13,506	
	工事請負費(国庫補助対象分)		157,292	
	工事請負費(国庫補助対象外)	133,250	75,519	
	合計	144,762	246,317	
財源	国庫支出金 (千円)		32,701	
	県支出金 (千円)			
	地方債 (千円)	119,000	143,000	
	その他特定財源 (千円)	25,762	70,616	
	一般財源 (千円)			
	合計 (千円)	144,762	246,317	
補助・起債制度名	水道事業債	水道事業債, 生活基盤施設耐震化等交付金		

#### 4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
<b>(1) 活動指標（実施した事業の内容）</b>							
指標名	石綿セメント管更新延長	目標値		6,000	9,000	12,000	15,000
		実績(見込)値	m	2,656	5,435		
	その他老朽管更新延長	目標値		4,000	6,000	8,000	10,000
		実績(見込)値	m	303			
<b>(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）</b>							
指標名	石綿セメント管残延長	目標値		35,484	32,484	29,484	26,484
		実績(見込)値	m	38,828	36,049	32,484	29,484
		達成率		146.6 %	136.1 %		
	有収率	目標値		95	95	95	95
		実績(見込)値	%	90	92	94	94
		達成率		94.7 %	96.8 %		

#### 5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

- ・ビジョン上では4.7km/年の布設替計画であるが、これまでは2~2.5kmとなっていた。
- ・国庫補助事業を活用し、老朽管の耐震化を含めた更新を行っていく。
- ・工事の手法(発注等)について見直しを行い、事業を効率化しつつ拡充を図っていく。

#### (2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	赤水の苦情が恒常的にあり、赤水発生の原因の一つである老朽化した石綿セメント管やその他老朽管を計画的に更新し、耐震化も図る必要がある。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政以外には実施できない事業である。
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手法が一般的であり、特に問題はない。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	石綿セメント管の布設替えにより地下漏水が減少し、有収率が年々向上しているが、工事費としては昨年、一昨年と労務費が上昇しコスト高となっている。
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	広範囲に対して便益が提供されており、偏りは見られない。
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	石綿セメント管の布設替えにより地下漏水が減少し、有収率が年々向上しており耐震化も図られているが、進捗状況が思わしくない。
進捗度	事業の進捗	C	遅れている	当該年度施工分工事の設計業務委託発注を、施工前年度発注へ移行中であるため。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

石綿セメント管については、水道事業創設時より布設された管種であり、地下漏水や赤水発生の一因で耐震性も低い。本事業を行うことにより有収率が向上し更には赤水発生も軽減できる。また最新の耐震管となることにより、配水管が長寿命化され長々期的なコスト削減にも繋がり危機管理面においても能力が向上することから、早急に更新事業を推進しなければならない。

総事業費が膨大であることから、計画的に実施するためには財源の確保に努める必要がある。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

工事の手法等を見直し経費削減に努める。  
また石綿セメント管やその他老朽管の布設替については最優先事業でもあり、事業資金としての内部保留金を確保することが不可欠である。

#### 6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)	日常的な赤水や漏水の発生の原因となる老朽管が調査の結果、約39Km残っており、更新などが計画どおり進んでいない現状にある。 このため、本事業を最優先事業に位置付け、痛みが特に激しい石綿セメント管の更新を引き続き行うとともに新たに補助対象となる鋼管等の更新も実施する。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。